

# 長洲町の地方創生に向けて 産学官連携事業の新たな取り組み 福岡大学・熊本北部漁業協同組合・長洲町が協定を締結！



▲協定を締結し熱く握手を交わす（左から）熊本北部漁協上田代表理事組合長、中逸町長、福岡大学山崎教授

## これまで取り組んできた事業



【食害生物(エイ)対策事業】



【ケアシエル調査事業】



【人工種苗放流調査事業】

8月3日、水産資源の回復や漁獲の向上、干潟の環境改善を目指すことを目的に、福岡大学産学官連携研究機関水循環・生態系再生研究所、熊本北部漁業協同組合、長洲町との三者による連携・協力に関する協定書調印式を行いました。

町ではこれまで、熊本北部漁業協同組合、熊本県と連携し、あさり母貝放流事業、干潟に砂をまく覆砂事業や長洲地先一帯に網を設置してあさり貝の天敵であるエイの侵入を防ぐ食害生物対策などあさり貝をはじめとした水産資源回復や干潟の環境改善に向けて、さまざまな取り組みを進めてきました。

平成25年度より、あさり貝の春と秋の産卵期にカキ殻を粉末にして2mm、11mmの球状に固めた天然栄養剤（ケアシエル）と砂利を入れたナイロンバックを海岸に設置し、あさり稚貝が定着

するか調査するケアシエル事業や長洲地先で採れたあさり母貝から人工ふ化させ、県水産研究センターの協力を得て10mm程度まで中間育成し、長洲地先への放流調査事業もスタートさせました。

これまでの取り組みの結果、平成17年まで0トンの漁獲量だったあさり貝が、平成25年91トン、平成26年80トンとここ数年漁獲量を伸ばし、少しずつ水産資源の回復や干潟の環境改善が図られています。

今回の産学官連携による協定締結により、福岡大学と熊本北部漁業協同組合、町が連携して長洲地先でさらなる水産資源の回復や漁獲の向上、干潟の環境改善に取り組んでいきます。

この取り組みは、長洲町の水産振興に向けた地方創生へのスタートであり、地域産業の活性化による雇用創出が期待されています。